

## 会議録

会議の名称	第1回西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会
開催日時	平成27年7月10日（金曜日）午後3時から午後5時40分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：有賀委員、大河内委員、小関委員、近藤委員（代理：西委員）、坂口委員、徳丸委員、土堤内委員、長島委員、成田委員、和田委員、 欠席：なし 事務局：飯島企画部長、児山企画部主幹、佐野企画政策担当主査、長塚企画政策担当主査、支援事業者（（株）インテージリサーチ）
議題	議題1 開会 議題2 市長あいさつ 議題3 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会委員の自己紹介及び職員紹介 議題4 副座長選出 議題5 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会の運営について （1）西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会設置要綱について （2）西東京市市民参加条例について （3）西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会傍聴要綱について 議題6 国の示す『まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」・「総合戦略」』について 議題7 人口ビジョン・総合戦略策定のスケジュールについて 議題8 人口ビジョン・総合戦略策定の視点について （1）西東京市の現状 （2）人口構造変化の要因と今後の影響 議題9 その他
会議資料の名称	（配布資料） 資料1 西東京市総合戦略策定懇談会委員名簿 資料2 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会設置要綱 資料3 西東京市市民参加条例 資料4 西東京市市民参加条例施行規則 資料5 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会傍聴要領 資料6 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」・「総合戦略」の概要 資料7 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」・「総合戦略」パンフレット 資料8 地域経済分析システムとは 資料9 懇談会における今後の議論の視点およびスケジュール 資料10 1 西東京市の現状分析と総合戦略の視点整理 資料10 2 人口減少および人口構造変化が今後及ぼす影響の例 資料11 西東京市人口ビジョン（案）の概要 （参考資料） ・西東京市第2次総合計画（概要版） ・西東京市第2次総合計画 ・市民マップ
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

## **議題1 開会**

(資料確認)

小関座長：

これより西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会第1回会議を開催させていただきます。

## **議題2 市長あいさつ**

丸山市長：

各委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、懇談会委員をお引き受けいただきありがとうございます。昨年12月に、国のまち・ひと・しごと創生法が制定され、人口減少や地方創生などの課題に対して、地方創生という視点で今後の5年間でどのような戦略を作り上げていくのか、皆さんのお知恵をお借りして、優先課題を明確にした上で、議論をお願いしたいと考えています。

西東京市は平成13年に合併して14年が経過し平成26年4月には「やさしさとふれあいの西東京市に暮らし、まちを楽しむ」との理念のもと第2次の総合計画がスタートしています。また、各課の個別計画である、都市計画マスタープラン、産業振興マスタープランの見直しや、第6期の介護保険事業計画などの策定を行いました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計値では、5年後に西東京市の人口は20万人前後となり、そこをピークとして人口減少に転じるとされていますが、人口構成や少子高齢化など様々な点で、将来展望を行う今回のビジョンには期待をしています。

シティプロモーションという視点では26市の中で知名度、認知度が低いことが市長会の調査結果にも示されており、今後、知名度や認知度を上げる取組も一定程度必要と考えていますが、それ以上に、西東京市に住んでいる人が、やさしさとふれあいを感じながら、暮らしを楽しみ、次の子ども達の時代へつなげるという理念のイメージを具現化できる戦略を期待していますので、よろしく願い申し上げます。

## **議題3 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会委員の自己紹介及び職員紹介**

○小関座長：

資料1 西東京市総合戦略策定懇談会委員名簿の記載の順に沿って、各委員の皆様から自己紹介をお願いします。

(自己紹介)

○有賀委員：

FM西東京という地元で18年目に入ったラジオ局で働いている有賀です。この町に活気がないと放送局側も活気が出ない。どうやれば町に活気が出るか、よりよい町になるだろうかとずっと考えながら放送をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

○大河内委員：

西東京商工会会長の大河内です。同時に東町商栄会の会長も引き受けさせていただいています。私は、地域コミュニティの核は商店街であると考えています。この懇談会を通じて、委員の皆様から貴重なご意見をお伺いできればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○小関座長：

懇談会座長を務めさせていただきますが、全体の進行を行う役目と考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

○西委員：

近藤の代理出席となります、関東経済産業局の地域振興課長補佐の西です。私どもの部局は経済産業省の地方出先ブロック機関で、関東甲信越 1 都 10 県を所管しています。今回の地方創生の関係では、皆さんと一緒に地域の課題を考える地方コンシェルジュとして、サポートをさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○坂口委員：

広告や出版のプランナーをしている坂口です。私どもの業界での最大のテーマは日本創生の問題で、企業や各種団体と様々な角度からその方向性などを検討しているところです。この場でも大いに勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○徳丸委員：

ままペンシルという団体に所属している徳丸です。ままペンシルは、全員合併してから西東京市に住んでいるママさん達がメンバーで、西東京市をもっと知りたい、好きになりたい、子ども達が大きくなった時にいい町に住んでいたと思ってほしいという思いで活動しています。この団体ができる前の 2007 年から西東京市の NPO で外国から来た子ども達向けに日本語教室をやっています。周りのお母さん達の声をお伝えしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○土堤内委員：

ニッセイ基礎研究所の土堤内です。日本生命のシンクタンクの研究員をしています。労働経済学が専門ではなく、都市計画、都市社会学をやっていて、少子高齢化、人口減少という構造変化の中でのまちづくりを考えています。人々が幸せになるためのライフデザインとそれを実現するための社会制度、ソーシャルデザインに興味を持って研究しています。どうぞよろしくお願いいたします。

長島委員：

多摩信用金庫価値創造事業部の長島です。多摩信用金庫は、昨年に市役所と連携協定を結びました。市内に 2 店舗あります。地方創生には危機感があり、多摩地域の市町村の取組が一番遅れているのではないかと危惧しています。他の自治体の様子を伝えながら、広域連携の話ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○成田委員：

中央大学でゼミ、講義を行っている成田です。西東京市という人口約 20 万の東京圏の都市でどのように活性化を図るか、これまでの基本計画・構想をベースに国の言う、まち・ひと・しごと創生のツールをどう活用するか、検討したいと思います。中央大学の前は都庁で働いていたので、行政の視点も踏まえながら、地域に根差した活性化という視点で参加させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○和田委員：

首都大学東京の和田です。都市社会学及びコミュニティ論が専門です。大学では都市政策コースに所属しております。第 2 次総合計画策定委員となり計画策定のお手伝いさせていただきました。東京都内の自治体をみると、少子高齢化の進展のありようも地域の格差があり、また、この西東京市内においても格差がある。国全体あるいは先進国全体の中で少子高齢化現象は予測されていて、大変難しい取り組みだと思っています。しかし、東京は全体として現段階では人口減には至っていないので、地域活性化といわれ

ても、現実的に本当にそうなのかという認識ではないかと思えます。しかし、将来を見越して、どのような具体的なテーマで計画を作るかということが本会の課題と考えています。私自身も勉強させていただき、そして何かお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○小関座長：

次に、私ども企画部の職員紹介をさせていただきます。

飯島企画部長以下担当職員の紹介  
(児山企画部主幹、長塚企画政策担当主査、佐野企画政策担当主査)

○小関座長：

人口ビジョン及び総合戦略策定にあたり、策定支援業務を委託している株式会社インテージリサーチの研究員を紹介します。

○インテージリサーチ：

担当するインテージリサーチの兼子です。どうぞよろしくお願いいたします。

○小関座長：

会議録作成の都合上、機器での録音、パソコンでの速記を行います。ご承知おき下さい。

○全委員：

了承。

#### **議題4 副座長選出**

○小関座長：

要綱により、副座長は座長が指名することとなっています。市の総合計画で会長を務めていただいた和田委員を指名させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

和田委員（以降和田副座長）：

ご指名ですので、副座長をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### **議題5 西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会の運営について**

○小関座長：

次第5について、説明をお願いします。

○事務局：

資料2～5に沿って説明

○小関座長：

ただいまの説明に対してご意見、ご質問はありますか。無いようであれば事務局の説明の通りに会議の運営、会議録の作成、傍聴等について、取り扱います。会議録については、事務局で作成し次回の会議までに皆様に配布し、内容確認後、修正箇所等があれば次回の懇談会で最終的な確認をしていただき、公開という手順で進めさせていただきます。

○全委員：  
了承。

## 議題6 国の示す『まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」・「総合戦略」』について

○小関座長：  
資料の説明をお願いします。

インテージリサーチ及び事務局：  
資料6～8に沿って説明

○小関座長：  
ここで2点ほど委員の皆様にご発言を求めたいと思います。多摩信用金庫では地域経済分析システム（RESAS（※以下「リーサス」）と表記）について自治体等に対して説明会などを実施されていますが、リーサスを活用する上での感想や活用状況について、長島委員からお願いします。

○長島委員：  
リーサスは国のシステムで内閣府が作成しています。自治体だけでなく、一般の方も内容が見られます。ただし、4つのマップのうち、帝国データバンクのデータを開示している産業マップだけは自治体でIDを持っている人しか見られない仕組みです。産業マップと他3つのマップも面白いのでぜひ委員の皆様もご覧いただきたいと思います。例えば、観光マップでは田無の駅前では1時間単位でどのように人が動いているのかがGPSデータでわかるようになっていて、19万の人口のうち7～8万人は市外に行っていると推定できるようなデータが見られます。データを使って何ができるかが市ではあまり理解されていないと思います。

内閣府は4つのポイントをあげていて、1つ目は、産業別のデータなどを使い、今までは、何となくわかっていたような情報が一般市民も含めて分かるようになること。2つ目として、リーサスでは西東京市だけではなく隣の小平市や練馬区のデータも見られます。今までは行政区を超えるのが難しかったが、区を超えて広域連携をとりながら行うことの説明がしやすくなること。3つ目として、自治体比較マップで順位が出てきます。各分野での自分の町の順位がわかり、上位のまちを見つけやすくなるので、連絡を取って施策を聞くこともできます。4つ目として、内閣府はデータの市民革命とっています。6月30日にNPO、市民団体向けの勉強会がありました。市民に興味を持ってもらい、リーサスを広げていくといいと思います。実際のところ、リーサスのデータはまだ使えないところがありますが、今後バージョンアップもされるので、利用してみてください。

○小関座長：  
多摩地域の自治体では市の職員よりも長島委員がリーサスに詳しいです。国の立場から西委員はリーサスについて補足はありますか。

○西委員：  
経産局職員もリーサスを活用しています。各自治体で作成している既存の総合計画の中で戦略にも活かせるような施策、データの検証について、自治体と一緒に勉強している状況です。先ほどもありましたが、バージョンアップしていきますので、戦略策定に活用いただければと思います。

○小関座長：

リーサスに関して、他にご質問やご意見はありますか。

### 議題7 人口ビジョン・総合戦略策定のスケジュールについて

○小関座長：

資料の説明をお願いします。

インテージリサーチ：

資料9に沿って説明

小関座長：

概ね4回の会議を経て、様々な視点から皆様の意見を頂き、総合戦略の策定を進めたいと思います。

○徳丸委員：

スケジュールにある市民参加のワークショップには、委員も参加出来るのでしょうか。

事務局：

構いません。

○長島委員：

市民意識調査アンケートはすでに実施しているということでしょうか。また、対象者人数について教えて下さい。

○事務局：

既の実施しており、現在、集計・分析を行っています。対象者は、無作為抽出という形で市内5,000人に郵送しています。また、現時点での回収率は40%ぐらいです。その他、転出、転入した方にも西東京市の印象を聞いたアンケートも実施しています。

○長島委員：

近隣市等WEB調査というのはどういうものですか。

インテージリサーチ：

沿線の近隣自治体の住民向けにWEB調査を予定しています。

### 議題8 人口ビジョン・総合戦略策定の視点について

○小関座長：

まず(1)について、説明をお願いします。

インテージリサーチ：

資料10 1、11に沿って説明

○小関座長：

ここで委員の皆様から少し意見を伺いたいと思います。最初に、和田委員は都市部における人口減少、少子高齢化の傾向について、どのようなご認識かお尋ねしたいと思います。

○和田副座長：

5年先というところごくリアリティがある。その中で人口構成をどう調整するか、一つの狙いは出生率を上げて将来的に人口を増やしていくという考え方になると思う。今の女性の子どもを産む意思決定について改善策を考えると、環境面の整備だけでなく、意識面を考えて施策に盛り込んでいくことが、政策全体に影響すると思います。国としても子どもをどう増やしていくかがポイントになっているように思います。女性の意識や生活環境をめぐる様々な問題を考えていかななくてはならない。一方、高齢化率が上がっていくこととバランスを考える必要があると感じています。資料の地域別の分析では、5地域では高齢化が進んでいるが、一方で子どもが増えている地域もあるように、同じ市の中でも地域間で差が生じています。内部の違いを認めつつ、それぞれの地域の特性を考え、バランスを取る必要があると思います。私はコミュニティ論が専門で日常生活圏を大事にしていますので、1つの自治体の中でも居住地域に囚われないような施策の設計も大事だと思います。行政サービスエリアはいくつかある中で、地区別の分析に地域包括支援センター担当地域を選んだことは、将来的にユニットになるという判断があったのかなど、今後お聞きしたいと思います。

インテージリサーチ：

将来的には高齢化の急激な進展が、行政における最も大きな課題と認識しています。行政サービスをどのように提供すべきかを考えると、様々なエリアがある中で、高齢者の視点から地域エリアの代表として位置づけています。

○和田副座長：

戦略的には少子化をどう改善するかということがありますが、全体の問題としては高齢化への対応が考えられます。地域包括のエリアというのは有効と思われます。エリアと全体との調整、外からの交流人口だけではなく、今後は地域間の交流人口などを考えることも必要と思います。

○小関座長：

多摩地域全体の人口減少、少子高齢化の動向等について、長島委員からご意見をお願いいたします。

○長島委員：

資料11の9ページでは純移動数が20歳から24歳ではプラスになっていますが、25歳以降34歳までマイナスになっています。資料⑦の4ページ左側の図では、東京都で若い人の転入数が伸びてそのまま横に流れていき、地方では若い人がマイナスになっています。多摩地区で調べてみると、15歳から24歳のところが東京と同じように少し上に上がっているが、25歳から34歳になるとマイナスに落ちる。両方を持ち合わせているのがベッドタウンの特徴だということがわかります。各市町村でも同じことを悩んでいて、大学が周辺にある影響ではないか、その人達がどこに住んでいるか、ということが議題になりますが、疑問は残ります。学校が原因なのか、都心の利便性という24区的要素で住んでいる人が多いのか、移動している原因が知りたい。15ページの図は左側が24区を自負している5市、右側に西武線沿線の5市が並んでいます。右側の市町村は開発の余地がまだ残っていて、生産緑地が変化していく中で、人口が右上がりになっていく可能性が残っている。西武線は都心に乗り入れて他の路線とも繋がっていて便利な場所というイメージが出始めているので、今後の分析のポイントをどこに置くのかにも繋がってくるのではないのでしょうか。

○小関座長：

20～30代の女性が今後、更に減少していく傾向がある中で、子育てにポイントを絞ってみます。子育て環境や出生を後押しする条件等について、徳丸委員からご発言をお願いいたします。

○徳丸委員：

西東京市の子育て事情は良くもなく悪くもなくという意見がよくあります。それは西東京市全体のイメージと重なっていて、合併したために特色が見えにくくなったところもあるのではないのでしょうか。医療費の無料期間は長いですが、待機児童数が北多摩で1番という話があれば西東京市で子育てはしなないと思います。保育所を1つ作れば済む話ではなく、庁舎の1階を保育所にするとか、何かシンボリックなことをして、子育てウェルカムな市だということをアピールしないと、一生懸命やっても目立たないと思います。

西東京市の各公民館には保育室があり、保育付き講座を定期的にやっています。育児休暇を取っているお母さんがこの間に他のものを学ぶことができる場が西東京市にはあると言っていました。普通のことだと思っているのはもったいない。子どもの手当よりも保育所を建ててほしいという意見があるが、自分がお金をもらうよりも全体的なことをやってほしいという意識だと思います。

日本語ができない子ども達のサポートをしていると、子ども達は日本語ができないことでいじめにあたりする時もありますが、学校で友達ができたらやっていけます。西東京市の学校は荒れていないし、環境の面では、子ども達は割と幸せなのではないかと思っています。

また、自分のまわりでは子どもがいる人は3人くらい産んでいる人が多いです。出生率という子どもがいる家といない家を合わせた平均ですが、1人産んでしまえば2人目以降を産もうかなと思える土壌はあるのではないのでしょうか。

いこいなトレインで西東京市が良いまちを広告しているのはいいことだと思います。西東京市はいいよと今まで言っていなかったけれど、あれを見ればいろいろな人が西東京市は良いまちだと思えるし、いろいろな人に伝えられるチャンスがあると思います。

○小関座長：

続いて、土埴内委員より出生率、転入転出の関係から西東京市の特徴について、ご発言をお願いします。

土埴内委員：

今日説明されたデータに、もう少し角度をつけたデータを付け加えていくと、具体的な施策が見えてくるのではないかと思います。3点申し上げたい。

まず、人口減少には人口全体が縮小する話と少子高齢化による構造変化の問題があって、それによって課題は全く異なります。人口構造が相似形で縮小した場合は問題にならない場合もある。特に人口構造に関して、統計では年少人口、生産年齢人口、高齢人口になっているが、多摩地域で15歳から20歳というのは生産年齢人口ではない。やはり実態に合わせて0歳から19歳まで、あるいは20歳から65歳の人口構成はどう変わっていくかという分析が必要になる。高齢人口に関して、75歳以上の後期高齢者がどう増えるかが社会構造に大きな影響を持つ。例えば、要介護の認定率を前期高齢者と後期高齢者と比べると、後期が7倍となっています。介護の問題にしても、前期と後期の比率がどう変化するかを分析しないとその後の地域の対応が見えてこない。人口構造の分析でも、この辺りをきちんと見ていくことによって具体的な施策が見えてくるのではないかと思います。



2点目として、人口は夜間人口だけではなく動的なものだと考えます。昼間人口がどのように動くかが地域再生にはとても大きい。現在の西東京市には団塊世代があまりいない。オールジャパンの人口ピラミッドはフタコブラクダのように65歳のところがものすごく出っ張っている。本来は団塊世代がリタイヤして地域に戻ると昼間人口が増える。リタイヤすることで増える団塊世代の活用が地域再生の大きな資源になると考えていたが、多摩地域は昼間人口比が低いのが特徴というデータを見て、昼夜間人口比率をリサーチすることで、課題と施策が見えてくると考えます。

3点目としては、社会構造を分析する時には世帯構造の変化の方が重要な要素となります。家族の構造がどう変わっているかを見るのが大事で、東京都は平均世帯人員が1.99で2を割っている。日本全体では単独世帯が1番多い。西東京市の状況はわからないが、世帯構造によって介護の仕方、子育ての仕方、就業形態、住宅形態に影響してくる。世帯構造のデータを入れて西東京市の特徴を分析しないと地域再生、地方創生の具体的ビジョン、施策が出てこないのではないかと思います。平均値で出生率を見るのではなく、多子世帯数によっても具体的な施策は変わる。市町村によっては多子世帯への支援を重点的にしているところがある。実は西東京市には多子世帯が多いということになれば、重点的な支援策を打つことが有効となります。きめ細かな地域分析によって実効性のある施策ができてくるのではないかと思います。

○小関座長：

次に、(2) について、説明をお願いします。

インテージリサーチ：

資料 10 2 に沿って説明

○小関座長：

財政面の課題について、成田委員からご発言をお願いいたします。

○成田委員：

人口減少および人口構造変化が今後及ぼす影響の例として個人市民税の減少が挙げられます。ただ、日本の場合は地方交付税という形で財政運営が担保されており、交付税による下支えがある。老人福祉費が増えるのはその通りで、例えば高齢福祉や生活保護などの性質別扶助費の中身の分析をもう少し行った方がよいと思います。各5年間くらいのトレンドを、24区を目指すような団体と北多摩の通常の団体という形で分析されると面白いのではないのでしょうか。

西東京市人口ビジョン(案)の概要は非常に面白い内容となっています。特に、7ページと8ページで、平成25年に社会減、自然減になったという新たな局面だが、26年度の結果もそろそろ取れるので、分析をお願いします。

○小関座長：

次に商店街の動向、今後の方向性や対策について大河内委員よりご発言をお願いします。

○大河内委員：

西東京市の産業構造は商業が主体となっています。商業の中には農業も含まれていると思いますが、梨、ぶどう、ブルーベリーは普通に食べられるのかと友達に聞かれるくらい、西東京市の農業の豊かさは産業の1つだと思います。こんな狭い西東京市に5つの駅があるという特徴は、買い物弱者と言われていた方に対する強みと言えるのではな

いでしょうか。

○小関座長：

次に言論、報道の関係から、坂口委員よりご発言をお願いします。

○坂口委員：

人口が減るとある程度ゆとりができる若い子は思っています。人口減少問題は今手をつけないとまちが病気になって、どんどん病気が増えていきます。だからこそ、今から手を打とうという戦略と思っています。日本創生会議・座長の増田レポートを読んだり、地域 ICT サミットなどの講演会を聞いたが、同じような意見がお客さんからもありました。

西東京市の総合計画では 6 つの方向があつて、国の 4 つの総合戦略とオーバーラップさせながら西東京市らしさを出そうとしているのだと思います。取組視点 2 について言えば、西東京市ブランドの構築ということだと思うが、これまでの広報政策は非常に弱いと思います。いこいな、下野谷遺跡公園など 1 つ 1 つの粒はあるのだが、大きなかたまり、房が見えてこない。色づかせる手腕ですね。

近隣市といたずらに数字争いをするのではなく、すべての自治体が掲げる共通の問題という観点から、モデルケースになっていくことを期待したい。

○小関座長：

次に有賀委員よりご発言をお願いします。

○有賀委員：

西東京はいいことをいろいろとやっていると思いますが、それをどう出していくかがわからないような気がしています。先日のリーサスの勉強会に参加した 1 人から、朝に田無駅で降りる人がたくさんいるが、彼らはどこへ行くのだろうかという話を聞いた。その人達は会社帰りには駅前で飲んだり食べたりすると思いますが、そうすると地元にお金が落ちる。そのような人の流れの分析などが分かってくると西東京市としての取組の立ち位置が分かるのではないのでしょうか。

西東京市は北多摩 5 市に目を向けるのか、それとも 24 区としてやっていくのか。北多摩の中では西東京市は非常に進んでいると思います。持ち家率が進んでいるとは思われないが、賃貸が多いということは人の動きがあるのだと思います。

また、出生率は 1.24 だけれど、平成 23 年は 1.29 で突出して高くなっています。小平は同じ年に 1.28 だったがそのまま伸びて 1.41 になっている。これは何だろうかとすごく疑問に思いましたので、次回にでも分析があれば教えてください。

○小関座長：

皆様の意見を受け止めて、次回の懇談会で何らかの分析のデータを新たに示せるようにと思っています。資料⑩ - 1 西東京市の現状分析と総合戦略の視点整理の右上の方には国の総合戦略が定める政策分野ということで、1. 安定した雇用の創出、2. 新しい人の流れ、3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るというテーマが国から方向性として示されています。西東京市では総合戦略をつくるにあたり、どこにウェイトを置くかについても今後、ご意見を伺いたいと思っていますので、次回に向けた説明をお願いします。

○インテグリティリサーチ：

西東京市の立ち位置、人口規模、将来のまちづくりなどについて、このプランで検討

する内容と考えています。次回はその点について、資料等も追加させていただき、議論できればと考えています。

○土堤内委員：

今後、議論で気になることが1つあります。それは、地方の単位をどう考えるのかということです。多摩地域は特殊で30市町村あって1つ1つの行政区域が小さく、複雑に入り組んでいて行政界と生活圏が一致していない。都市間で人口移動が起こっている中で、社会移動で西東京市からこれだけの人口が減ったということがマクロ的に地域の問題なのかというところがあります。西東京市という区切りの中で問題を絞り込んで、施策を立てていくのはとても難しいのではないのでしょうか。何を課題と認識するのかは、都市間ネットワークの中でずいぶん異なります。行政界をはずして議論していくわけにはいかないと思いますが、公共施設の在り方などでは多摩では利用者の中でどう適正配置を考えるかということをやらないと財政問題の解決が難しい。そのあたりをどう整理されていくのか、についても検討していきたいと思います。

○有賀委員：

都市間ネットワークをうまく表現できたらいいと思いますが、市という行政単位で物事を考えると、難しい話だと思っています。住民の意識は行政単位で縛られてはいないと思っていますが。

○小関座長：

おっしゃるような広域的な視点も必要であると思いますが、行政単位を基本として戦略策定が求められていますので、そのあたりのバランスについては、今後考えていきたいと思っています。

## **議題9 その他**

○事務局：

次回の日程調整ですが、8月6日又は10日で、各委員の皆様のご都合をお聞きして、調整させていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○小関座長：

本日はありがとうございました。これで閉会とします。

(閉会)

以上